

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	鈴木 二美枝
主な担当科目	音楽教養表現Ⅱ,実技個人レッスン[ピアノⅠ③,ピアノ③,ピアノ④,音楽芸術表現実技(ピアノ)①],実技グループレッスン[ピアノⅡ①,ピアノⅡ③,ピアノⅡ④]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	本年度も学部・短大・修士の実技ピアノレッスン、副科ピアノグループレッスン、音楽教養コース各授業を担当させていただいている。学修サポート等では学生の声を直接聞かせていただいている。ピアノ個人及びグループレッスン、担当授業では、本学在籍時における各学生たちの目指す自己実現に向けた高い目標や新鮮な発想を大切に柔軟にきめ細かい指導で導いていくことを目指す。また、学生たちが率直な声を届けられる大学教員としてのコミュニケーションを大切にしていきたい。
2022年の教育に関する自己評価	学部・短大・修士実技レッスンでは各学生が自発的に目標を掲げ取り組んでくれたことは、在学中はさらなる向上に結びつき卒業後の音楽家としての人生の力にもなると期待している。グループレッスンでは、一人一人の演奏力向上に加えて新たな発見に繋がる視野を広げられるよう楽曲背景や聴く力を大切にしている。音楽教養コースコンサートでは、コンサート開催準備や運営、プログラム、演奏と、全てを学生たちが主体的に取り組めるよう指導のサポートとフォローは必須である。盛会のコンサートに結びつき、新鮮なアイデアや履修者全員の協力による手ごたえは多くの気づきを得ることに繋がったようだ。
2022年のFD活動に関する自己評価	本年度はテーマに基づく大学全体FD研修会、鍵盤楽器学内組織FD研修会、音楽教養学内組織FD研修会、FDSD合同研修会、SD研修会、BD研修会と大学教員の質向上のための研修会が実施され全てに参加した。更に大学教育質向上のための動画視聴も加えられ多くの学ぶ機会に恵まれた。動画では大学での様々な取り組みについて資料や口頭で整然とまとめられ、客観的な視点を持つことの大切さを痛感している。FD研修会の意見交換では実際の教育経験が語られ問題点や教育成果等共有することができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	意見交換での先生方の教育成果やお考えを共有したことは新鮮で、自身の教育経験の裏付けや新しい考え方に結びついている。中でもFD研修会動画から、自身の経験を考え方に变えて学生に教育として伝え学生の学びと発見に繋げていく教員としての姿勢に改めて共感し、意識してレッスンや授業に取り組んだ。学生たちが各自の高い目標に向かっていく気持ちや新鮮なアイデアをアウトプットできるよう導ける教員としての姿勢を大切にしたい。

科目名－クラス名

## 音楽教養表現Ⅱ

## 曜日時限

水 1時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
その他	2～	通年	2	0	20	0	80	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースの学びの上に立ち、専門の演奏力を活かして、音楽表現や音楽上での他者との協調について学ぶ。特に「音楽教養コースコンサート」では、音楽によるコミュニケーションを学び、授業での研究成果を発揮できることを目標とするとともに将来のキャリアに繋がる能力の獲得を目指す。授業内における意見交換や他者へのコメント等を通じて適切な配慮をもって表現できる視野を広げる。

## 学修成果

- ・アンサンブルを通して他者との協調や音楽表現ができるようになる。
- ・ミュージックベルの奏法を知り、多人数での協調した演奏ができるようになる。
- ・演奏表現において他者への適切な配慮を持った意見好意感をおこなうことができるようになる。
- ・音楽教養コースコンサートを通して、演奏やコンサート運用について主体的に研究成果を発揮できるようになるとともに、コミュニケーション力を備えた社会性を養うことができる。

## 授業展開と内容

- 第1回 音楽教養コースでの学びを確認しながら「音楽教養表現Ⅱ」の授業計画について理解を深めよう。(4月6日)
- 第2回 社会や身の回りに目を向けて、音楽を活かしたコミュニケーションについて考え調べ、語ってみよう。(4月6日)
- 第3回 各自が専攻する楽器等について、それぞれのメカニズム、調性・音域、音色、演奏方法、歴史、おすすめの楽曲等をまとめ、実際に演奏や映像、音源を交えて、各自の視点からその魅力を伝えよう。各専攻に複数の該当者がいる場合は、グループ発表も可です。①鍵盤楽器、声楽、弦管打楽器他。(4月20日)
- 第4回 各自が専攻する楽器等について、それぞれのメカニズム、調性・音域、音色、演奏方法、歴史、おすすめの楽曲等をまとめ、実際に演奏や映像、音源を交えて、各自の視点からその魅力を伝えよう。各専攻に複数の該当者がいる場合は、グループ発表も可です。②ジャズ・ポピュラー、バレエ他。(4月27日)
- 第5回 アンサンブル① ミュージックベルを演奏しよう。楽器を知り、互いの音を良く聴き合って、楽しくも美しいアンサンブルを目指して。そして次回に取り上げる楽曲選曲をする。(5月11日)
- 第6回 アンサンブル② ミュージックベルを演奏しよう。聴き手やシチュエーションをイメージして美しいバランスを意識しながら演奏に繋げよう。(5月18日)
- 第7回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(1) これまでに聴き手として体験した印象に残るコンサートとその魅力を紹介してみよう。ジャンルは自由です。紹介は、口頭、PowerPoint等使用、実際の音源録音等視聴、紹介文(メッセージ) ...各自の方法で紹介しよう。(5月25日)
- 第8回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(2) 音楽教養コースコンサートの意義について理解し、コンサート開催までの流れを確認しよう。演奏と運用両面に目を向けて、準備から当日までのスケジューリングをイメージして。(6月1日)
- 第9回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(3) 演奏プログラムを検討しよう。ソロや実際に可能なアンサンブルについて検討し選曲を進めていく。(6月8日)
- 第10回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(4) コン서트全体の流れをイメージしてプログラム構成について検討しよう。(6月15日)
- 第11回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(5) プログラム全ての演奏曲目を互いに理解しよう。各楽曲を演奏や音源を用いて、全員がコンサートの全容を把握する。(6月22日)
- 第12回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(1) 各楽曲の作品について調べ、その魅力を口頭で伝えよう。(6月29日)
- 第13回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(2) 作品への理解と表現力豊かな演奏を向けて。楽譜を丁寧に読み求められる演奏表現に繋げていく。(7月6日)
- 第14回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(3) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。演奏に必要な表現について、更に楽曲の演奏解釈を行う。(7月13日)
- 第15回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(4) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。他者の演奏を聴き演奏の多様性を理解して演奏への感想や意見交換を行う。  
「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(6) 後期をスムーズに進めるためにプログラムをはじめコンサートまでのスケジュールや運用役割等トータルしてコンサートの確認を行う。(7月20日)
- 第16回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(5) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。楽曲への演奏解釈を深め公開演奏の舞台に立つ意識に繋げる。(9月7日)
- 第17回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(6) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。授業内演奏発表経験の積み重ねにより、演奏への集中力を高めていく。(9月14日)
- 第18回 「第25回音楽教養コースコンサート」授業内全曲通し演奏。コンサート全体の流れを確認し、より良い演奏を目指す。(9月21日)
- 第19回 「第25回音楽教養コースコンサート」授業内全曲通し演奏。(9月28日)

第20回	「第25回音楽教養コースコンサート」リハーサル。ユリホール（10月3日） 担当 白船睦洋 鈴木二美枝
第21回	「第25回音楽教養コースコンサート」出演。ユリホール（10月4日） 担当 白船睦洋 鈴木二美枝
第22回	「第25回音楽教養コースコンサート」を終えて。音楽教養コースコンサートを経験して感想や意見交換を行う（授業内課題提出）（10月12日）
第23回	特別講義 「鍵盤楽器の基礎知識」 本学所蔵の歴史ある鍵盤楽器によりピアノの調律や仕組み等について学修する。 特別講師 瀧美昌明氏。（10月26日）
第24回	楽譜と演奏① 様々な楽譜による演奏の比較をしてみよう。演奏表現はどのように変わるのか。（11月2日）
第25回	楽譜と演奏② 様々な楽譜による演奏の比較をしてみよう。各自で調べ演奏表現の比較をする。（11月16日）
第26回	特色ある舞台芸術を映像により鑑賞する。（11月30日）
第27回	楽曲研究 プログラムノート作成のために① どのようなプログラムノートを作成するか様々な視点から考えてみよう。（12月7日）
第28回	楽曲研究 プログラムノート作成のために② 自身の演奏曲目についてのプログラムノートを作成しよう。楽曲の魅力を伝えるには。（12月14日）
第29回	楽曲研究 プログラムノート作成のために③ 自身の演奏曲目についてのプログラムノートを作成しよう。（課題提出）（1月11日）
第30回	「音楽教養表現II」のまとめ。（1月18日）

### 履修上の注意

アンサンブルを柱に様々なコミュニケーションを学ぶ音楽教養コースの必修科目です。他の学生の演奏をよく聴き、意見交換をする。楽譜は丁寧に読むこと。  
第16回～第19回の授業は会場を変更して実施する予定。  
第23回の授業は、瀧美昌明氏（特別講師）により実施する。  
第20、21回は白船睦洋、鈴木二美枝が担当する。他授業回は鈴木二美枝が担当する。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

事前に指定された楽曲等については、各自、できることから取り組み、興味をもって学修し授業に臨むこと。準備学修として予習・復習60分程度。  
第21回課題提出は授業時に提出する。提出課題はコメントや評価内容を記してフィードバックする。

### 教科書・参考書

取り上げる楽曲については授業を進めながら指定、配付していく。

科目名－クラス名

## 音楽教養表現Ⅱ

### 曜日時限

水 1時限

### 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
その他	2～	通年	2	評価割合	0	20	0	80	0	100

### 教育到達目標と概要

音楽教養コース1年での学びの上に立ち、専門の演奏力を活かして、音楽表現や音楽上での他者との協調について学ぶ。特に「音楽教養コースコンサート」では、音楽によるコミュニケーションを学び、授業での研究成果を發揮できることを目標とするとともに将来のキャリアに繋がる能力の獲得を目指す。授業内における意見交換や他者へのコメント等を通じて適切な配慮を持って表現できる視野を広げる。

### 学修成果

- ・アンサンブルを通して他者との協調や音楽表現ができるようになる。
- ・ミュージックベルの奏法を知り、多人数での協調した演奏ができるようになる。
- ・演奏表現等において他者への適切な配慮を持った意見交換を行うことができるようになる。
- ・音楽教養コースコンサートを通して、演奏やコンサート運用について主体的に研究成果を發揮できるようになるとともに、コミュニケーション力を備えた社会性を養うことができる。

### 授業展開と内容

- 第1回 音楽教養コースでの学びを確認しながら「音楽教養表現Ⅱ」の授業計画について理解を深めよう。(4月6日)
- 第2回 社会や身の回りに目を向けて、音楽を活かしたコミュニケーションについて考え調べ、語ってみよう。(4月13日)
- 第3回 各自が専攻する楽器等について、それぞれのメカニズム、調整・音域、音色、演奏方法、歴史、おすすめの楽曲等、実際に演奏や映像、音源を交えて、各自の視点からその魅力を伝えよう。各専攻に複数の該当者がいる場合は、グループ発表も可です。① 鍵盤楽器、声楽、弦管打楽器他。(4月20日)
- 第4回 各自が専攻する楽器等について、それぞれのメカニズム、調整・音域、音色、演奏方法、歴史、おすすめの楽曲等、実際に演奏や映像、音源を交えて、各自の視点からその魅力を伝えよう。各専攻に複数の該当者がいる場合は、グループ発表も可です。② ジャズ・ポピュラー、バレエ他。(4月27日)
- 第5回 アンサンブル① ミュージックベルを演奏しよう。楽器を知り、互いの音を良く聴き合って、楽しくも美しいアンサンブルを目指して。そして次回に取り上げる楽曲選曲をする。(5月11日)
- 第6回 アンサンブル② ミュージックベルを演奏しよう。聴き手やシチュエーションをイメージして、美しいバランスを意識しながら演奏に繋げよう。(5月18日)
- 第7回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(1) これまでに聴き手として体験した印象に残るコンサートとその魅力を紹介してみよう。ジャンルは自由です。紹介は、口頭、PowerPoint等使用、実際の音源録音等視聴、紹介文(メッセージ)....各自の方法で紹介しよう。(5月25日)
- 第8回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(2) 音楽教養コースコンサートの意義について理解し、コンサート開催までの流れを確認しよう。演奏と運用両面に目を向けて、準備から当日までのスケジュールをイメージして。(6月1日)
- 第9回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(3) 演奏プログラムを検討しよう。ソロや実際に可能なアンサンブルについて検討し選曲を進めていく。(6月8日)
- 第10回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(4) コン서트全体の流れをイメージしてプログラム構成について検討しよう。(6月15日)
- 第11回 「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(5) プログラム全ての演奏曲目を互いに理解しよう。各楽曲を演奏や音源等を用いて、全員がコンサートの全容を把握する。(6月22日)
- 第12回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(1) 各楽曲の作品について調べ、その魅力を口頭で伝えよう。(6月29日)
- 第13回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(2) 作品への理解と表現力豊かな演奏に向けて。楽譜を丁寧に読み求められる演奏表現に繋げていく。(7月6日)
- 第14回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(3) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。演奏に必要な表現について、更に楽曲の演奏解釈を行う。(7月13日)
- 第15回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(4) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。他者の演奏を聴き演奏の多様性を理解して演奏への感想や意見交換を行う。  
「第25回音楽教養コースコンサート」へのアプローチ(6) 後期をスムーズに進めるために、プログラムをはじめコンサートまでのスケジュールや運用役割等トータルしてコンサートの確認を行う。(7月20日)
- 第16回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(5) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。楽曲への演奏解釈を深め公開演奏の舞台に立つ意識に繋げる。(9月7日)
- 第17回 「第25回音楽教養コースコンサート」の演奏曲目研究(6) 作品への理解と表現力豊かな演奏を目指して。授業内演奏発表経験の積み重ねにより、演奏への集中力を高めていく。(9月14日)
- 第18回 「第25回音楽教養コースコンサート」授業内全曲通し演奏。コンサート全体の流れを確認し、よち良い演奏を目指す。(9月21日)

第19回	「第25回音楽教養コースコンサート」授業内全曲通し演奏（9月28日）		
第20回	「第25回音楽教養コースコンサート」リハーサル。ユリホール（10月3日）	担当	白船陸洋 鈴木二美枝
第21回	「第25回音楽教養コースコンサート」出演。ユリホール（10月4日）	担当	白船陸洋 鈴木二美枝
第22回	「第25回音楽教養コースコンサート」を終えて。音楽教養コースコンサートを経験して感想や意見交換を行う（授業内課題提出）（10月12日）		
第23回	特別講義 「鍵盤楽器の基礎知識」本学所蔵の歴史ある鍵盤楽器によりピアノの調律や仕組み等について学修する。 特別講師 渥美昌明氏。（10月26日）		
第24回	楽譜と演奏① 様々な楽譜による演奏の比較をしてみよう。演奏表現はどのように変わるのか。（11月2日）		
第25回	楽譜と演奏② 様々な楽譜による演奏の比較をしてみよう。各自で調べ演奏表現の比較をする。（11月16日）		
第26回	映像により特色ある舞台芸術を鑑賞する。（11月30日）		
第27回	楽曲研究 プログラムノート作成のために① どのようなプログラムノートを作成するかを様々な視点から考えてみよう。（12月7日）		
第28回	楽曲研究 プログラムノート作成のために② 自身の演奏曲目についてのプログラムノートを作成しよう。楽曲の魅力を伝えるには。（12月14日）		
第29回	楽曲研究 プログラムノート作成のために③ 自身の演奏曲についてのプログラムノートを作成しよう。（課題提出）（1月11日）		
第30回	「音楽教養表現II」のまとめ。（1月18日）		

### 履修上の注意

コンサート開催やアンサンブルを柱に様々なコミュニケーションを学ぶ音楽教養コースの必修科目です。他の学生の演奏や意見をよく聴き、積極的に意見交換をする。楽譜は丁寧に読むこと。

第16回～19回の授業は会場を変更して実施する予定。

第23回の授業は渥美昌明氏（特別講師）により実施する。

第20、21回は白船陸洋、鈴木二美枝が担当する。他授業回は鈴木二美枝が担当する。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

事前に指定された楽曲等については、各自、できることから取り組み、興味をもって学修し授業に臨むこと。準備学修として予習・復習60分程度。

第21回課題提出は授業時に提出する。提出課題はコメントや評価内容を記してフィードバックする。

### 教科書・参考書

取り上げる楽曲については授業を進めながら指定、配付していく。

科目名－クラス名

## ピアノⅠ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	3～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅠ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをを行う。1年次、2年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。3年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれ

## 学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

## 授業展開と内容

第1回	2年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	腕の脱力と音質の関係
第3回	腕の筋力の強化について
第4回	指の強化について①はっきりとした音の出し方
第5回	指の強化について②指と鍵盤との関係
第6回	指の強化について③柔軟な手首の使い方
第7回	指の強化について④指使い、運指
第8回	バロック様式の鍵盤楽器奏法について
第9回	バロック様式のテンポについて
第10回	バロック様式の楽曲分析について
第11回	前期実技試験曲の選曲
第12回	前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について
第13回	前期実技試験の楽曲分析について
第14回	前期実技試験の技術的問題点について
第15回	前期実技試験の音楽的表現について
第16回	古典派作曲家の作品①技術的問題点
第17回	古典派作曲家の作品②音楽的表現
第18回	古典派作曲家の作品③演奏解釈
第19回	ロマン派作曲家の作品①技術的問題点
第20回	ロマン派作曲家の作品②音楽的表現
第21回	ロマン派作曲家の作品③演奏解釈
第22回	近現代作曲家の作品①技術的問題点
第23回	近現代作曲家の作品②音楽的表現
第24回	近現代作曲家の作品③演奏解釈
第25回	後期実技試験曲の選曲
第26回	後期実技試験曲の技術的な問題点について
第27回	後期実技試験曲の音楽的な表現方法について
第28回	後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法
第29回	後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について
第30回	後期実技試験曲の通奏についての最終確認

#### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

---

#### 教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをを行う。1年次、2年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。3年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれをもとに音楽の演奏法を修得する。

## 学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

## 授業展開と内容

第1回	2年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	腕の脱力と音質の関係
第3回	腕の筋力の強化について
第4回	指の強化について①はっきりとした音の出し方
第5回	指の強化について②指と鍵盤との関係
第6回	指の強化について③柔軟な手首の使い方
第7回	指の強化について④指使い、運指
第8回	バロック様式の鍵盤楽器奏法について
第9回	バロック様式のテンポについて
第10回	バロック様式の楽曲分析について
第11回	前期実技試験曲の選曲
第12回	前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について
第13回	前期実技試験の楽曲分析について
第14回	前期実技試験の技術的問題点について
第15回	前期実技試験の音楽的表現について
第16回	古典派作曲家の作品①技術的問題点
第17回	古典派作曲家の作品②音楽的表現
第18回	古典派作曲家の作品③演奏解釈
第19回	ロマン派作曲家の作品①技術的問題点
第20回	ロマン派作曲家の作品②音楽的表現
第21回	ロマン派作曲家の作品③演奏解釈
第22回	近現代作曲家の作品①技術的問題点
第23回	近現代作曲家の作品②音楽的表現
第24回	近現代作曲家の作品③演奏解釈
第25回	後期実技試験曲の選曲
第26回	後期実技試験曲の技術的な問題点について
第27回	後期実技試験曲の音楽的な表現方法について
第28回	後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法
第29回	後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について
第30回	後期実技試験曲の通奏についての最終確認

#### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

---

#### 教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1?3年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、後期実技試験(卒業演奏)に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。

## 学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。④卒業後のキャリア形成に繋がる学修の総括となる。

## 授業展開と内容

第1回	3年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題点について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲(卒業試験)の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲(卒業試験)の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲(卒業試験)の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲(卒業試験)通奏による完成に向けての最終確認

### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究や分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

---

### 教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1～3年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、後期実技試験(卒業演奏)に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。

## 学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。④卒業後のキャリア形成に繋がる学修の総括となる。

## 授業展開と内容

第1回	3年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題点について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲(卒業試験)の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲(卒業試験)の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲(卒業試験)の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲(卒業試験)通奏による完成に向けての最終確認

### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究や分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

---

### 教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノⅡ①

13:45～14:30

## 曜日時限

木 1時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

## 教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅡ①

9:45～10:30

## 曜日時限

水 2時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

## 教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅡ①

9:00～9:45

## 曜日時限

火 1時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

## 教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅡ①

9:00～9:45

## 曜日時限

水 3時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				80	0	0	0	20	100

## 教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅡ①

10:40～11:25

## 曜日時限

木 2時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

## 教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ①

9:45～10:30

曜日時限

木 2時限

担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
- 第2回 テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
- 第3回 テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
- 第4回 テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
- 第5回 練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
- 第6回 練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
- 第7回 練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
- 第8回 練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
- 第9回 練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
- 第10回 ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
- 第11回 ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
- 第12回 ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
- 第13回 ポリフォニー音楽（楽曲分析）
- 第14回 クラス内発表の準備
- 第15回 総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
- 第16回 舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
- 第17回 舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
- 第18回 舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
- 第19回 舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
- 第20回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
- 第21回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
- 第22回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
- 第23回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
- 第24回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
- 第25回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
- 第26回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第27回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
- 第28回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
- 第29回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
- 第30回 総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ①

11:25～12:10

曜日時限

火 1時限

担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	1～	通年	2	定期試験	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
- 第2回 テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
- 第3回 テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
- 第4回 テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
- 第5回 練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
- 第6回 練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
- 第7回 練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
- 第8回 練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
- 第9回 練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
- 第10回 ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
- 第11回 ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
- 第12回 ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
- 第13回 ポリフォニー音楽（楽曲分析）
- 第14回 クラス内発表の準備
- 第15回 総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
- 第16回 舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
- 第17回 舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
- 第18回 舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
- 第19回 舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
- 第20回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
- 第21回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
- 第22回 様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
- 第23回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
- 第24回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
- 第25回 様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
- 第26回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第27回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
- 第28回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
- 第29回 後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
- 第30回 総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅡ③

13:45～14:30

## 曜日時限

金 2時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				評価種別	定期試験				
実技・実習	3～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	20	100
				80	0	0	0		

## 教育到達目標と概要

2年間の勉強を基に、興味ある時代や作曲家の作品に取り組み、学びを深める。楽曲理解に必要な知識を得る。高度な技術を習得して表現の幅を広げる。ソロだけでなく連弾などのアンサンブルに取り組む。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション：2年間の学修を振り返り、年間テーマと課題を決めレッスンを計画する
- 第2回 基本テクニックの確認（基礎）：スケール・アルペジオなど
- 第3回 基本テクニックの確認（応用）：苦手を克服するための練習曲に取り組む
- 第4回 楽曲の背景を知る：前期に取り組む曲の作曲家や時代について知る
- 第5回 読譜（基礎）：拍子、調性、形式を確認する・指使いを考える
- 第6回 読譜（応用）：使われているテクニックを確認し、練習計画を立てる
- 第7回 楽曲の理解（基礎）：和声を理解しフレーズを考える
- 第8回 楽曲の理解（応用）：アゴーギクなど演奏表現を考える
- 第9回 楽曲の理解（発展）：音楽表現を深める
- 第10回 テクニックの習得（基礎）：楽曲に使われているテクニックの練習法を学ぶ
- 第11回 テクニックの習得（応用）：楽曲演奏のために効果的な練習曲を併用する
- 第12回 テクニックの習得（発展）：難度の高い部分を音楽的に演奏する方法を探る
- 第13回 楽曲の演奏スタイルと解釈を考える
- 第14回 楽曲に相応しい表現を磨く
- 第15回 前期授業内小テスト：楽曲演奏／夏期休暇課題と後期学修計画の確認
- 第16回 夏期休暇課題成果発表と後期課題の確認：楽曲の作曲家や時代について知る
- 第17回 読譜：楽曲の形式を確認する・使われているテクニックから指使いを考え、練習計画を立てる
- 第18回 楽曲の理解：和声やフレーズを元に、アゴーギクなど演奏表現を考える
- 第19回 高度なテクニックの習得（基礎）：楽曲に使われている高度なテクニックの練習法を学ぶ
- 第20回 高度なテクニックの習得（応用）：高度なテクニックを音楽的に演奏する方法を探る
- 第21回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（導入）：楽曲を理解し各自の役割を決める
- 第22回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（基礎）：練習のポイントを確認する
- 第23回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（応用）：音楽表現を深める
- 第24回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
- 第25回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
- 第26回 後期試験曲のグルーブレッスン（基礎）：練習のポイントを確認する
- 第27回 後期試験曲のグルーブレッスン（応用）：音楽表現を深める
- 第28回 後期試験曲のグルーブレッスン（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
- 第29回 後期試験曲のグルーブレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
- 第30回 後期試験曲のグルーブレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く

履修上の注意

前期授業内小テスト1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ③

9:45～10:30

## 曜日時限

木 1時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
				評価割合	80	0	0	0	20
									100

## 教育到達目標と概要

2年間の勉強を基に、興味ある時代や作曲家の作品に取り組み、学びを深める。楽曲理解に必要な知識を得る。高度な技術を習得して表現の幅を広げる。ソロだけでなく連弾などのアンサンブルに取り組む。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：2年間の学修を振り返り、年間テーマと課題を決めレッスンを計画する
第2回	基本テクニックの確認（基礎）：スケール・アルペジオなど
第3回	基本テクニックの確認（応用）：苦手を克服するための練習曲に取り組む
第4回	楽曲の背景を知る：前期に取り組む曲の作曲家や時代について知る
第5回	読譜（基礎）：拍子、調性、形式を確認する・指使いを考える
第6回	読譜（応用）：使われているテクニックを確認し、練習計画を立てる
第7回	楽曲の理解（基礎）：和声を理解しフレーズを考える
第8回	楽曲の理解（応用）：アゴーギクなど演奏表現を考える
第9回	楽曲の理解（発展）：音楽表現を深める
第10回	テクニックの習得（基礎）：楽曲に使われているテクニックの練習法を学ぶ
第11回	テクニックの習得（応用）：楽曲演奏のために効果的な練習曲を併用する
第12回	テクニックの習得（発展）：難度の高い部分を音楽的に演奏する方法を探る
第13回	楽曲の演奏スタイルと解釈を考える
第14回	楽曲に相応しい表現を磨く
第15回	前期授業内小テスト：楽曲演奏／夏期休暇課題と後期学修計画の確認
第16回	夏期休暇課題成果発表と後期課題の確認：楽曲の作曲家や時代について知る
第17回	読譜：楽曲の形式を確認する・使われているテクニックから指使いを考え、練習計画を立てる
第18回	楽曲の理解：和声やフレーズを元に、アゴーギクなど演奏表現を考える
第19回	高度なテクニックの習得（基礎）：楽曲に使われている高度なテクニックの練習法を学ぶ
第20回	高度なテクニックの習得（応用）：高度なテクニックを音楽的に演奏する方法を探る
第21回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（導入）：楽曲を理解し各自の役割を決める
第22回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（基礎）：練習のポイントを確認する
第23回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（応用）：音楽表現を深める
第24回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
第25回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
第26回	後期試験曲のグルーブレッスン（基礎）：練習のポイントを確認する
第27回	後期試験曲のグルーブレッスン（応用）：音楽表現を深める
第28回	後期試験曲のグルーブレッスン（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
第29回	後期試験曲のグルーブレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
第30回	後期試験曲のグルーブレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く

履修上の注意

前期授業内小テスト1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ④

9:45～10:30

## 曜日時限

金 2時限

## 担当教員

鈴木 二美枝

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	20	100
				80	0	0	0		

## 教育到達目標と概要

大学でのピアノ演奏の学びの集大成として、興味ある時代や作曲家の作品を中心に取り組む。楽曲理解に必要な知識を得て、演奏する曲について言葉でまとめる。さらに高度な技術を習得して表現の幅を広げる。ソロだけでなく連弾などのアンサンブルに取り組む。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：3年間の学修を振り返り、年間テーマと課題を決めレッスンを計画する
第2回	テクニックの確認（基礎）：スケール・アルペジオなど
第3回	テクニックの確認（応用）
第4回	楽曲の背景を知る：前期に取り組む曲の作曲家や時代について知る／文献を通じて理解を深める
第5回	読譜（基礎）：拍子、調性、形式を確認する・指使いを考える
第6回	読譜（応用）：使われているテクニックを確認し、練習計画を立てる
第7回	楽曲の理解（基礎）：和声を理解しフレーズを考える
第8回	楽曲の理解（応用）：アゴーギクなど演奏表現を考える
第9回	楽曲の理解（発展）：音楽表現を深める
第10回	テクニックの習得（基礎）：楽曲に使われているテクニックの練習法を学ぶ
第11回	テクニックの習得（応用）：楽曲演奏のために効果的な練習曲を併用する
第12回	テクニックの習得（発展）：難度の高い部分を音楽的に演奏する方法を探る
第13回	楽曲の演奏スタイルと解釈を考える／プログラムノートを書く
第14回	楽曲に相応しい表現を磨く／演奏前のプレゼンテーションの内容を考える
第15回	前期授業内小テスト：プレゼンテーションを交えた楽曲演奏（ソロまたはアンサンブル）／夏期休暇課題と後期学修計画の確認
第16回	夏期休暇課題成果発表と後期課題の確認：楽曲の作曲家や時代について知る／文献を通じて理解を深める
第17回	読譜：楽曲の形式を確認する・使われているテクニックから指使いを考え、練習計画を立てる
第18回	楽曲の理解：和声やフレーズを元に、アゴーギクなど演奏表現を考える
第19回	高度なテクニックの習得（基礎）：楽曲に使われている高度なテクニックの練習法を学ぶ
第20回	高度なテクニックの習得（応用）：高度なテクニックが求められる部分を音楽的に演奏する方法を探る
第21回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（導入）：楽曲を理解し各自の役割を決める
第22回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（基礎）：練習のポイントを確認する
第23回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（応用）：音楽表現を深める
第24回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
第25回	様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
第26回	後期試験曲のグルーブレッスン（基礎）：練習のポイントを確認する
第27回	後期試験曲のグルーブレッスン（応用）：音楽表現を深める
第28回	後期試験曲のグルーブレッスン（発展）：演奏スタイルと解釈を考える／プログラムノートを書く
第29回	後期試験曲のグルーブレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く／演奏前のプレゼンテーションの内容を考える
第30回	後期試験曲の仕上げ／1年間の学修を振り返る

履修上の注意

前期授業内小テスト1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：110 教員名：鈴木二美枝

### 1) 評価結果に対する所見

様々な主専攻の学生たちとの授業やレッスンでの音楽コミュニケーションは、新鮮かつ充実した時間だった。演奏技術のみならず音楽史を背景に会話が弾んだことや、豊かな演奏表現に向けて、より踏み込んだ作曲家へのアプローチの楽しみを共有することができたのではないかと思う。また、音や演奏を聴くことの大切さを各学生の演奏や言葉から感じ取ることができた。学生たちが授業やレッスンに関心や興味をもって参加し、ものの見方や考え方が広がったと実感できる授業内容を共有できたようだ。学生たちには各専攻の持つ力を活かして、更に、自身の持つ音楽力を伸ばしていってくれることを期待している。

### 2) 要望への対応・改善方策

複数の教員が担当するオムニバス授業では、各授業内容への関心度には個人差があると考えられるが、それでも学修成果が上がる工夫がなされ、興味関心を持ちものの見方や考え方が広がることに繋がっているようだ。しかしながら、オムニバスであるために授業会場や特別講師を迎えての授業などへの環境や対応等について、学生たちが心配することのないよう配慮をすることの大切さを、あらためて見直していく。

### 3) 今後の課題

各授業において、音楽で培った学生たちの持つ価値観や社会性を大切に、円滑な授業運用に向けた配慮等を更に強化していきたい。

以上